

冬休みワークキャンプ

高校生の福祉体験

社協では青少年が施設で暮らしている方との関わりを通じて、他者への思いやりの気持ちを育むことを目的としたワークキャンプを開催しました。
江別高校・とわの森三愛高校の生徒5名が高齢者福祉施設「静苑ホーム」で実習を行い、福祉の現場で様々な体験をしました。



介護食事体験

ゼリー食やソフト食、ペー
スト食など様々な形態の
食事を食べ「安全」かつ「美
味しく」食べることの大切
さを学びました。

参加生徒の感想文

永井 さくら
(江別高校1年)

今回、初めて参加して介護という仕事の楽しさや、難

しさ、心がけなければいけないことなど学ぶことができてとても楽しかったです。一番最初行なった、高齢者疑似体験では手足がマヒになった方の体験ができ、その方の思いや、生活する上での大変なことがわかってとても勉強になりました。手足がうまく使えないと階段を上るのも一段、一段と一歩ずつゆっくりと歩かなきゃいけないので、階段だけで少し汗をかいてしまうほど大変でした。また、白内障の方の体験ができるゴーグルをかけると今まで見えていたものが見えづらくなり、小銭を落としたりときに床と色が同化して小銭がどこについてしまったのかわからなくて大変でした。このような時にやはり人の助けは大事だなと思いました。
現在、介護士が少ないなかで、自動販売機のような

車いすの方でも上のボタンが押せるように工夫されていると一人でも買うことができるのでユニバーサルデザインの物が増えるとうれしいなと思いました。次に体験した食事については、一人ひとりに合わせた具材の大きさやカロリーについて工夫されていてすごいなと思いました。実際に食べてみてソフト食は、私たちとあまり変わらず、ゼリー食では歯がない方でも食べられるようになっていて味も変わらなくておいしかったです。ペー
スト食では、もう食べてすぐ飲みこめる状態になっていて、それも味もかわらなくてすごいなと思いました。高齢



高齢者疑似体験

普段は何気なく利用している自動販売機。感覚の鈍さを体験する手袋をつけたがらの体験で体の不自由さを感じました。

になつてくると食事もとても大変になつてくるので管理栄養士はすごいなと思いました。ほかにも色々学べてとても勉強になりました。
今回はこのような体験をさせてくださりありがとうございました。

佐藤 静流

(江別高校1年)

これまで、自分の中で介護などの福祉に関する分野は難しかったり、大変だという認識があつて、中学校や高校の学校生活の中で職業体験など様々な職種にふれ合える機会には、今、振り返ってみると福祉は避けてきたなという印象がありました。

このワークキャンプは、自分の福祉に関しての認識を変える貴重な機会だったと思います。もちろん、介護は、簡単で楽だったという風に変わったわけではありません。今日1日のわずかな時間で見ても難しく、大変だという認識は全く変わりませんでした。しかし、たとえ体が不自由でも介護士の方々の手を借りても、ご飯が食べられたり、生活できていることが利用者の方々にとっては、

喜びでうれしいことなんだと思います。また、この職種に限らず、世の中にある仕事は、利用者の方々やお客様、相手の喜びを自分の満足とすることが、相手も自分もいい気持ちになれる理想の形だと思いました。

ワークキャンプの企画の一つで高齢者疑似体験、車いすの乗車体験をさせていただきました。左半身麻痺の状態で歩いたり、階段を上り下りしたり、自動販売機で飲み物を買いました。そして改善できる点を考えたりしました。また、デイサービスの方々と一緒に魚釣りゲームをしました。とても有意義な時間を過ごすことができました。

これから生きていく上で、自分の親や、祖父母が高齢になり今まで自分でできていたことが出来なくなる日が来ると思います。ペットボトルのふたが開けられなくなったり、重たいものが持てなくなったりなどです。「ををしてほしい」と頼まれたりした時に、またかまたかと思わずに、これまで自分を育ててあげてくれたことに対して、次は自分が何かをしようという気持ちで助け合い、支え合っていきたいと強く感じました。